

第6波
高齢者施設等クラスター対応
まとめ
2022.4.25 **マニュアル版**

2022.1.27より開始

第1陣：3サ高住

第2陣：3特養+1障がい者施設

第3陣：5サ高住（+1サ高住：入院調整のみ）

第4陣：2特養+2施設

第5陣：1特養+2施設

合計：20施設

（その他、4施設の嘱託医へモルヌピラビル使用方法の指導）

保健所橋本先生のスライドより

・ 1月下旬から4月上旬までの間で保健所に対応した主な高齢者施設

・ サービス付高齢者住宅	14 施設
・ 介護老人福祉施設	9 施設
・ 介護施設	3 施設
・ グループホーム	2 施設
	<hr/>
合計	28 施設

・ 施設入所者における陽性者の合計 **336人**

施設内療養者 239人 施設内療養患者の割合 **71.1%**
入院患者 97人

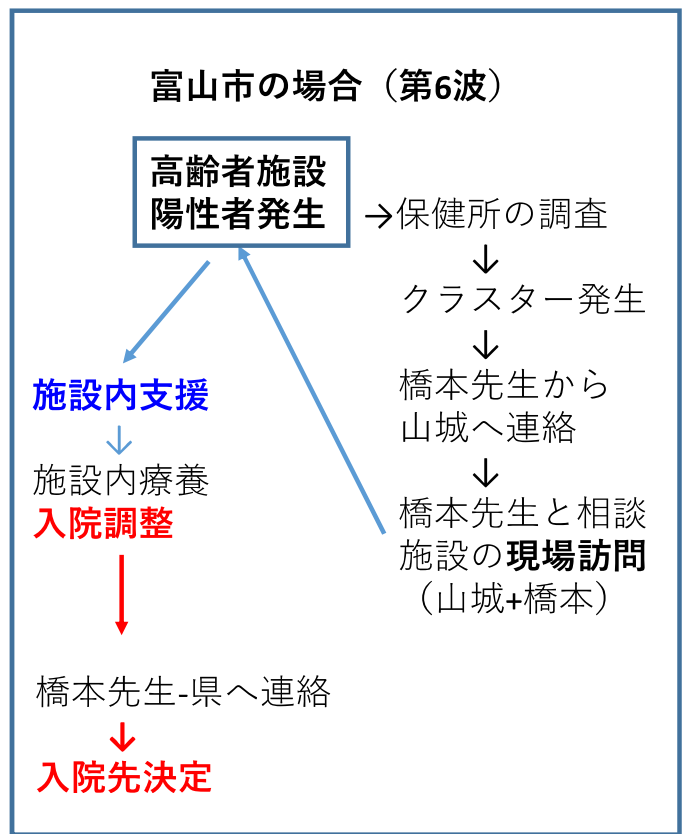
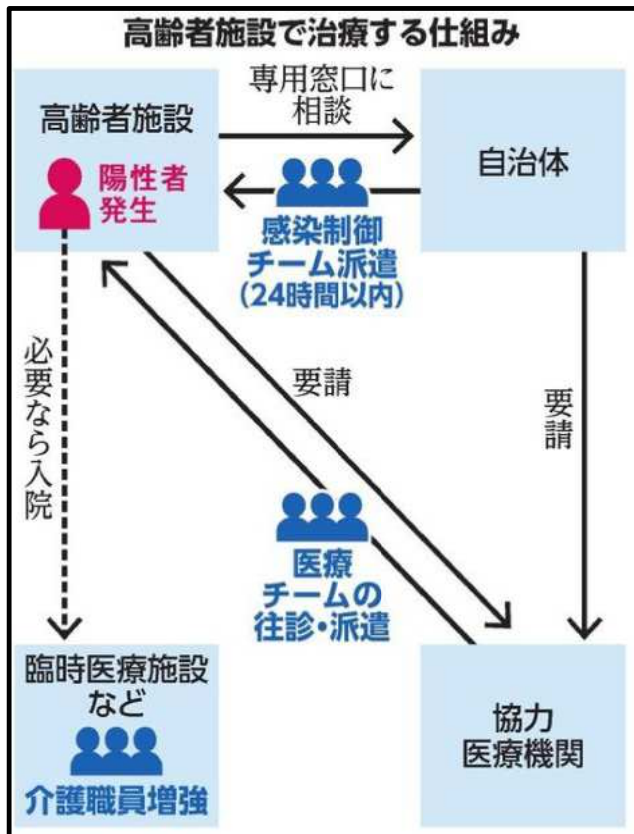
	施設数	陽性者	全施設入所者	陽性者の割合 (%)
介護施設(特養その他)	12	184	672	27.4
サービス付高齢者住宅	12	133	387	34.4
	24	317	1056	29.9

（施設全体の検査数が確認できた施設のみを対象とした）

・ 施設職員における陽性者の合計 **143人**

2022.4.5報道
国が進めようとしている仕組み

第6波での富山市の仕組み



今後第6波を超える感染拡大が来れば、行政・医師会等の連携が必要となる。

施設内支援

クラスター対応の4ポイント + α

1. 対策本部設置、情報共有
2. ゾーニングと感染対策
3. 陽性者と陰性者の状態把握 (ケア)
4. **入院調整**が必要な人の状態、基礎疾患、内服薬、介護度
5. 入院調整のため、保健所に連絡
6. 県の入院調整係から連絡を受け、状態の説明し、入院病院を決めてもらう
7. 入院病院が決定後、救急車を手配し、搬送

- ・ゾーニングしても、認知症などで勝手に歩き回る人がいて、施設内ではさらに感染が広がった。(職員はがっかりせずに対応するように激励した)
- ・**早期診断** (鼻咽頭ぬぐい液の**抗原定性検査**) と**早期治療**
早期に経口薬 (**モルヌピラビル** (ラゲブリオ)) 使用で入院が減った。(2月15日より)

1.対策本部設置と情報共有 (施設内に本部を設置：ホワイトボード使用・職員間の情報共有)

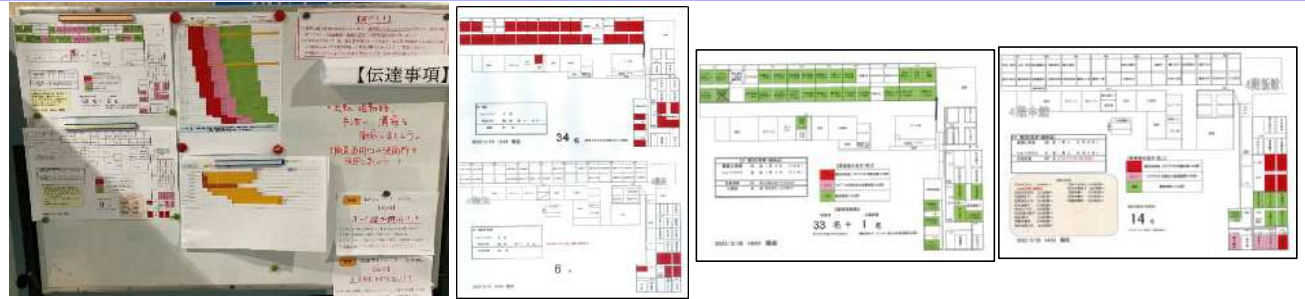
A
施設



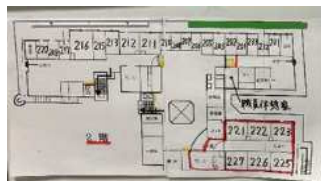
B
施設



C
施設



2.ゾーニングと感染対策 (ガウン着脱法)



- ・レッドゾーンを決めて、イエローとグリーンを決める。
- ・ガウンの着脱場所を決める。姿見の鏡を準備。
- ・ガウンの着脱法を身に着ける。
- ・物品の整理整頓。

B



C



3.陽性者と陰性者の状態把握（ケア）

C施設 回診：

- ・必要に応じて（定期）抗原定性検査を繰り返す。
- ・陽性者を早期に診断して、早期治療をする。



モルヌピラビルは
脱カプセル化して
甘いゼリーに混ぜて
投与した。
(家族の承諾が必要)

4.入院調整が必要な人の状態、基礎疾患、内服薬、介護度

感染対策：

- ・早めの抗原定性検査、陰性と陽性を調べて、早めの部屋移動、そして内服薬（モルヌピラビル）投与
- ・誤嚥、転倒、持病悪化に注意。
- ・可能な場合（抗菌薬5名：クラビッド、ロセフィン等）+点滴

→コロナ感染症として中等症以上は入院。

→持病の悪化の場合も入院

→そして、誤嚥（誤嚥性肺炎）、転倒（骨折）で入院となる場合もある。

→保健所の橋本先生へ連絡し、入院調整をしてもらう。

ただし、急変の場合は施設の判断で救急車を呼んで入院させることになる。

1.重症度分類（医療従事者が評価する基準）

重症度	酸素飽和度	症状状態	診療のポイント
軽症	SpO ₂ ≥ 95%	呼吸状態がなし or 軽微なみぞ呼吸困難なし いずれの場合でも も肺動脈圧測定なし	・多くが自宅療養するが、急変に備え が進行することも考慮 ・リスク因子のある患者は原則として 入院療養の対象となる
中等症Ⅰ 呼吸不全なし	93% < SpO ₂ < 95%	呼吸困難、軽微な低 酸素血症	・入院の上で慎重に観察 ・後継担当が揃って呼吸状態を測 定することが必要 ・酸素の不足に対処することも重要
中等症Ⅱ 呼吸不全あり	SpO ₂ < 93%	酸素投与が必要	・呼吸不全の原因を特定 ・重症化を促すリスク因子を特定
重症		ICUに入室 or 人工呼吸器が必要	・人工呼吸器管理に基づく重症判定 の必要性（血圧、呼吸）の観察 ・H型・H型に問わず、換気量増加 ・H型・H型で、ECMOの導入を検討 ・H型からH型への移行は判定が困難

重症度別マネジメントのまとめ



モルヌピラビル (ラゲブリオ)

MSD株式会社：製造販売承認取得

MSDについて

MSD (Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.)が米国とカナダ以外の国と地域で事業を行う際に採用している名称は、130年におわり、人々の生命を救い、人生を豊かにするといふミッションのもと、世界で最も治療薬開発に注力するために、革新的な医薬品やワクチンの発見、開発、提供に努めておりました。MSDはまた、多岐にわたる治療プログラム、パートナーシップを通じて、患者さんの医療へのアクセスを促進する活動に積極的に関与しています。私たちは、今日、がん、HIVやエイズといった感染症、そして新たな動物の疾病など、人類や動物を脅かしている病気の新薬や治療のために、研究開発の最前線に立ち回っています。MSDは世界最量の研究開発型バイオ医薬品企業を目指します。MSDの詳細については、弊社ウェブサイト (www.msd.co.jp)やFacebook、Twitter、YouTubeをご覧ください。

<参考資料>

製品概要

販売名	ラゲブリオカプセル200mg
一般名	モルヌピラビル
効能又は効果	SARS-CoV-2による感染症
用法及び用量	通常、18歳以上の患者には、モルヌピラビルとして1回800mgを1日2回、5日間連続して投与する。
承認取得日	2021年12月24日

1回4C, 1日2回, 5日間 = 40C

禁忌：本剤の重篤な過敏症、妊娠/妊娠している可能性のある女性、18歳未満(臨床試験を実施していない)



副作用

- 胃腸障害：
下痢・悪心 (1-5%)、嘔吐 (1%未満)
- 神経障害：
浮動性めまい・頭痛 (1-5%)
- 皮膚障害：
発疹・蕁麻疹 (1%未満)

1箱40カプセル入り



ラゲブリオ
1回4カプセル、1日2回
5日間投与





2022.3.31 C施設
(3月9日～) **物品調整**

感染対策：
 早めの抗原定性検査、
 陰性と陽性を調べて、
 早めの部屋移動、
 そして**内服薬（ラゲブリオ）投与**
誤嚥、転倒、持病悪化に注意。
 (抗菌薬5名：クラビッド、ロセフィン等) +点滴

4月12日収束



オミクロン株潜伏期間
 国立感染症研究所2022.1.31

表1. 発症間隔の観察データ (N=30)

日数	ペア数 (N=30)
0日	1
1日	4
2日	9
3日	8
4日	7
5日	1

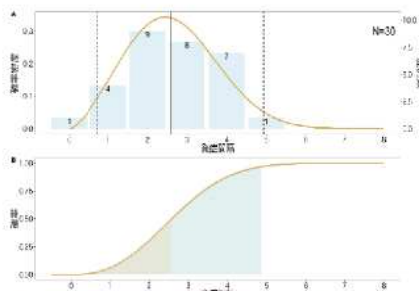


図1. 実地疫学調査のデータを用いたオミクロン株の(A)発症間隔の分布と(B)累積分布 (N=30)

発症間隔の単位は日。図Aにおいて黒線は中央値、波線は左から2.5%、97.5%点を示す。グラフ内の数字はそれぞれの感染ペア数を示す。図Bにおいて黒色は30%、青色は67.5%点を示し、0日は0.6日扱いとした。

表2. 一次感染者の発症日から二次感染者が発症するまでの日毎の確率 (%)

日数	確率 (%)
1日	6.03
2日	30.32
3日	63.53
4日	87.75
5日	97.53
6日	99.72
7日	99.98
8日	100

**8日目で
100%発症**

考察

本報告では、国内の実地疫学調査により発症日-発症日が明らかなおミクロン株症例の感染ペア(N=30)を用いて発症間隔にWeibull分布を当てはめて推定した。発症間隔の中央値は2.6日(95%CI: 2.2-3.1)、95%が0.7日から4.9日の間であると推定された。発症間隔が実地疫学調査から推定された潜伏期間(中央値2.9日[95%CI 2.6-3.2])より短いことから⁽¹⁾、発症前に二次感染者を発生させている可能性が示唆される。

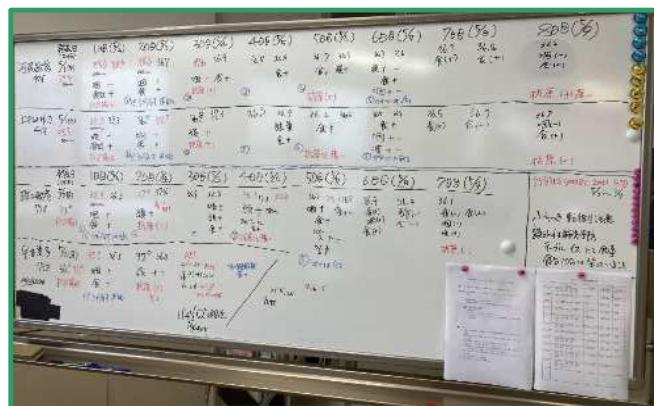
本報告の分析には制約がある。実地疫学調査では、隠匿をうけた可能性のある者すべてが含まれていない可能性があるため、発症間隔を過小評価している可能性がある。精緻な推定値を得るには切り捨てを加味したモデルと十分なサンプルサイズが必要であるが、今回は検討できていない。

注意事項

本報は迅速な情報共有を目的としており、内容や見解は知見の更新によって更新される可能性がある。

ある施設では、抗原定性検査を繰り返して、早期診断/早期治療
 早期の部屋移動でゾーニングを施行した。幸いこの施設では陽性者は出なかった。

		26名		抗原検査		PCR実施		抗原検査		抗原検査		抗原検査		
				0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
		在籍者		3月26日	3月27日	3月28日	3月29日	3月30日	3月31日	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日
		居室	氏名	性別	生年月日	土	日	月	火	水	木	金	土	日
0発覚者		3月26日陽性入院												
1	218		女	S83.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	220		女	S23.29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	221		女	S75.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	222		女	T810.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	223		女	S510.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	226		男	S2311.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	227	3月26日	女	S35.17	+	KT37.3°C	—	—	—	—	—	—	—	—
8	227	日抗原	女	S47.28	+	症状無し	—	—	—	—	—	—	—	—
9	227	陽性	女	S79.14	+	20日動体感発熱し	—	—	—	—	—	—	—	—
10	228		女	S16.211	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	228		女	S11.311	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	228		女	S41.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13	228		女	S15.12.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	231		女	S68.28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	231		女	S81.27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	232		女	S12.4.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	232		女	S21.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	233		男	S16.74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	233		男	S106.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	235		女	T1012.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	235		女	S225.26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	235		女	T13.2.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	235		女	S21.22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24	237		男	S15.8.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	238		女	T12.2.27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



A精神科病院
 5月2日～12日
 患者4名（入院1名）
 誤嚥性肺炎疑い
 職員5名（入院1名）
 基礎疾患あり



職員と陰性者は
 1,3,5,8日目に
 抗原定性検査を施行



リハビリ室に隔離し、
 簡易ベッドを設置





SK苑
5月9日～23日

入所者 **6名** 抗原定性検査
職員 **3名** 1,3,5,7日目



抗原定性検査による
早期診断・隔離
そして早期治療へ

・濃厚接触者から発症

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
1	+									
2	+									
3	+									
4	-		+							
5	-		+							
6	-				+					
7	-									
8	-									
9	-									
10	-									
11	-									
12	-									
13	-									
14	-									
15	-									
16	-									
17	-									
18	-									
19	-									
20	-									
21	-									
22	-									
23	-									
24	-									
25	-									
26	-									
27	-									
28	-									
29	-									
30	-									



第6波での新しい対応のまとめ

- ①クラスターを起こした高齢者施設への支援
- ②施設での療養支援
- ③入院調整は原則医師-医師とした。

- ④モルヌピラビル（ラゲブリオ）を積極的に使用。また、投与方法の工夫。
- ⑤そのために早期診断（抗原定性検査）と早期治療
- ⑥早期診断のために、施設では1日目、3日目、5日目、7/8日目に頻回検査をした。
- ⑦モルヌピラビルの登録（嘱託医あるいはかかりつけ医にお願いした）

第7波にむけて

上記に加えて、

- ⑧経口薬パキロビット（ニルマトレルビル/リトナビル）を登録し使えるように準備する。
- ⑨更に行政（保健所）・医師会・救急病院の連携強化
- ⑩高齢者住宅（サ高住）への対応が検討課題になる。